

## 土砂災害防止施設の整備推進（防災・安全）（重点）

### 計画概要

#### ◆計画期間

平成28年度 ～ 平成31年度（4年間）

#### ◆計画の目標

南海トラフ地震などの巨大地震や豪雨などに起因して発生する土砂災害による犠牲者ゼロを目指して、土砂災害防止施設の整備を推進する。

また、既存の土砂災害防止施設に要求される機能及び性能を長期にわたり維持・確保するため、長寿命化計画を策定する。

#### ◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①: 土砂災害防止施設の整備により、土砂災害から保全される重要交通網、要配慮者利用施設(重要)及び避難所を保全対象に含む箇所を64箇所から74箇所へ増加

## 評価内容

### ◆ 交付対象事業の進捗状況(平成31年度末時点)

事業名			指標① 対象事業
交付対象事業			
A1 砂防事業	1,969百万円	大草沢始め、3箇所の土砂災害防止施設が完成した。	○
A2 急傾斜地崩壊対策事業	1,090百万円	田村区域始め、3区域の土砂災害防止施設が完成した。	○
A3 その他総合的な治水事業	2,706百万円	長寿命化計画を作成した。	
D1 地籍整備事業	225百万円	調査等を実施した。	
合 計	5,990百万円	各指標の進捗率	70%※2

※1:事業費は実績額

※2:進捗率(%)は各事業の計画の成果目標 指標①に対する実施割合 【土砂災害防止施設の整備箇所数ベース】

## I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況（別紙1）

・国道419号、大草保育園（要配慮者利用施設、避難所）、市道、人家10戸、嶺雲寺及び郵便局を保全対象とする大草沢通常砂防事業において土砂災害防止施設を整備したことにより、土砂災害から保全される避難所の数が増加した。

## II 定量的指標の達成状況

指標①（土砂災害警戒区域等を指定した箇所数）

最終目標値	74箇所	目標値と実績値に差が出た要因	用地・補償交渉が難航し時間を要したため。
最終実績値	71箇所		

## III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）

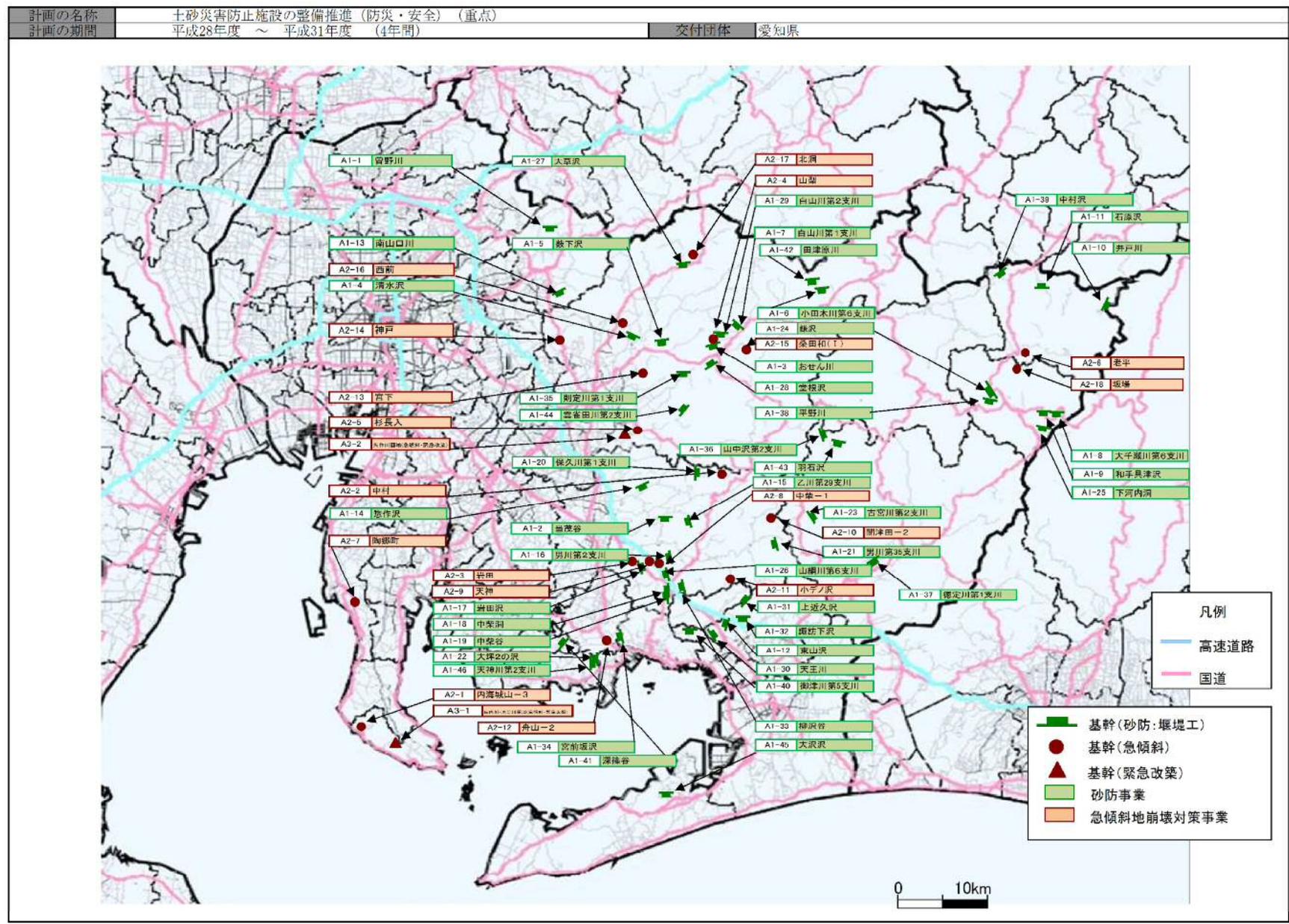
—

### ◆今後の方針

計画の成果目標である定量的指標は、平成31年度末までに達成できなかったが、今後はより一層土砂災害防止施設の整備を行うことにより、安心・安全な地域づくりに貢献する。

# 参考図面(1)

「土砂災害防止施設の整備推進（防災・安全）（重点）」計画 参考図面



## 参考図面(2)

### D 社会資本整備円滑化地籍整備事業

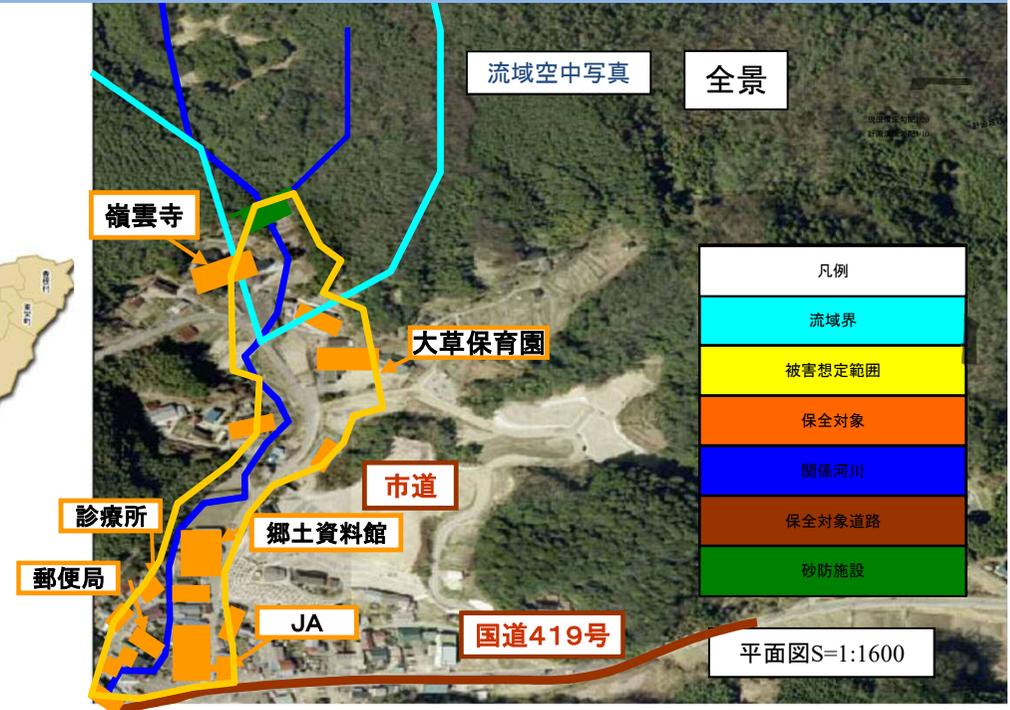


# 事業効果の発現状況事例

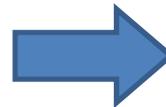
## 【基幹事業】

- 事業名 矢作川水系大草沢通常砂防事業
- 工事概要 堰堤1基、溪流保全工L=83m
- 事業箇所 豊田市
- 事業主体 愛知県
- 保全対象 国道419号、大草保育園、市道、人家10戸、嶺雲寺、郵便局
- 事業効果 土石流による被害を未然に防ぐための砂防施設の概成により、保全対象施設が保全され、避難所等を保全対象とする土砂災害危険箇所の保全箇所数が増加した。

位置図



着手前



概成